地域連携推進会議 議事録 2025年12月19日
場所：ウィズリブ八幡（エクシー八幡204共有室）
時間：2025年12月19日 16:00~
参加者：
ウィズリブ八幡利用者：Kさん
利用者保護者：Mさん
グループホーム職員：鈴木
社会福祉士：Nさん
～以下より敬称略～

＝＝＝＝
●会議資料に沿って進める（別途配布）
A.ウィズリブ八幡について
①施設案内・提供しているサービスについて
②医療体制について

B.利用者の日々の様子について
①利用者K様よりウィズリブでの生活についての聞き取り
②支援員より日々の対応について報告

C.非常時の対応について
①自然災害対策
②感染症対策
③火災対策

D.課題、今後の展望について
①ヒヤリハット報告について（ウィズリブ八幡T様事例）
②今後の地域との関係について

●質疑応答については章ごとに行う。

＝＝＝＝

A.ウィズリブ八幡について

鈴木：八幡のサービスについてご理解いただけたでしょうか？
N：西岡マンションとエクシー八幡の棟では食事提供以外で大きな違いはないでしょうか？
鈴木：基本的には同じになります。ただ西岡マンションの方はすぐ目の前に馬渕GHがあるため、馬渕夜勤者と連携して対応を行うことがあります。
N：どのような場合ですか？

鈴木：不安時は２人体制で面談を実施したり、食事の提供は馬渕の方で実施するなど、西岡マンション利用者の方が関わる職員が多いです。基本的には利用者のニーズに合わせてどちらかを一緒に考えて入居されております。
M：定期的に実施している面談の内容とはどのようなものでしょうか？
鈴木：就労先での悩み相談であったり、体調確認であったり、雑談をされたりさまざまです。普段一人暮らしに近い生活の分、コミュニケーションが希薄になり精神的な低下に繋がることがあるため、それの防止でもあります。アパート型GHの課題でもあると思います。
現在皆さんがいらっしゃるこちらの共有室でコミュニケーションを実施しております。
M：夜間支援について詳しく教えてください
鈴木：また夜間支援はプライバシー重視なので基本的には個室の中には職員は入りませんが、希望される場合は確認をすることもあります。アパート型GHのため利用される利用者も過干渉を望んでない方がほとんどです。Mさんの娘さんも同様でして基本的には消灯確認に留めております。
M：承知しました。

B.利用者の日々の様子について

利用者、Kさんの話
鈴木：私たち職員による日々の支援について普段思っていることはございますか？よかった部分、不満に思っている部分なんでも良いのでお話しくださると助かります。
K：私は元々一人暮らしで生活をしてきましたが、ここはプライバシーが順守されるので以前と同じようなイメージで生活できております。過干渉もなく、コミュニケーションもほどよく取れるのでちょうど良い感覚に思えます。
私は特性上、日によって気持ちのコンディションが大きく違いますが、職員と話すことで落ち着くことも多く、そこについては良い部分だと思います。
毎日の体調フォーム送信は少ししんどいこともありますが過干渉にならず、かつ
日々の体調の様子を測るにはちょうど良いシステムかなと。
N：生活で困っていることはありますか？
K：入居前に約束していたことではありますが、食事がないことで、緊急時に対応が難しいところがあることです。ただ元々一人暮らしに近く、基本的には自分でやりたいと思い入居したので、仕方ないことかなと思います。ですが、大雨による停電があったときは緊急で食料が貰えて嬉しかったです。
M：近隣住民との関わりはありますか？
K：基本的にはほとんどないですね。近所トラブルが仮にあった時は職員に相談するつもりでいます。GHとして大きく開示していないのもあります。
鈴木：食事については申し訳ないですが、契約上難しい部分ではありますのでご承知いただけているようでよかったです。Kさんのおっしゃる通り、災害時は無償で食料と水の支給など緊急時は臨機応変に対応するように尽力しております。

職員鈴木より日々の業務について
鈴木：支援員としてはプライバシーの順守と利用者の状態理解のバランスをとることを最も重要視しております。
八幡の入居者は「一人暮らしの能力はあるけど社会生活などへの不安が強い方、サポートが必要な方」が利用されており、他の施設より自立度が高いです。また、ニーズ上、深い干渉は望んでおらず、特性上コミュニケーションが大きなストレスになるリスクが高いです。
そんな中でGHとしてはストレスなく、かつ利用者が安全、健康に生活ができるように支援することが必要で、支援にはどうしても接触が必要な機会が多いため、前述の通りストレスのリスクも高まります。
そんな中で、コミュニケーションとプライバシーを良い塩梅で維持しながら細やかに利用者の状態を理解する必要があります。
毎日の面談も長く取りすぎず、希望によってはテキストコミュニケーションで代替するなど臨機応変に対応しております。
N：コンディションによっては無理なコミュニケーションはせずということですね。毎日のフォーム入力もそういった経緯からできたのでしょうか？
鈴木：おっしゃる通りです。コミュニケーションの時間はとっておりますが、常に職員の目に入っている状況ではないため、フォームにてご様子確認の補助を行っております。
M：女性職員はおりますか？
鈴木：女性職員もいらっしゃいますが、男性が夜勤に入ることもあります。ですが、訪問看護は女性が対応しているので、相談しにくいことは訪看が請け負うことが多いです。

C.課題、今後の展望について
ヒヤリハットの件
鈴木：事例報告としては以上になります。八幡でも騒音トラブルなどが十分考えられるので気をつけて参ります。
M：GHの管理が甘いと利用者の印象や生活まで影響するので、慎重にお願いします。
鈴木：八幡では逆に利用者が周囲の音が気になるといった相談があり、こちらで代理で対応したことがあります。利用者だけでなく、周辺環境を整えてトラブルを未然に回避することも八幡ではより一層求められていると考えております。
N：GHでの騒音トラブルは特に多いですね。八幡の利用者を確認した限り、音による影響がでそうな方がいらっしゃるので、後手後手の対応だけは避けたいです。
鈴木：また「苦手な隣人がいる」「挨拶をされて怖かったから逃げてしまった」などもありまして...その都度関係した近隣の方とはこちらでコミュニケーションをとっています。

今後の地域での関わり方について
鈴木：八幡については施設利用者の特性上、地域と積極的に関わることは難しいので、引き続き周辺とのコミュニケーションは職員で行い、推進会議といった場で、理解を得ていきたいと考えています。

M：そうですね。娘もホームであることをはっきりと明示して欲しくないようです。
N：今まで搬送対応などはありましたか？
鈴木：ありました。職員が緊急で同行して対応しました。アパート型の他の事業所では頻発してしまい、周辺住民への理解が必要になったところもあるとお伺いしています。
秘匿する部分も多いですが、理解を得るためにはある程度開示する必要もあるので情報の選択を慎重に行いながら開けた状態に持っていきたいです。